

# 福島原発事故情報・特報便 No. 4

2011年4月1日  
フォーラム平和・人権・環境  
原水爆禁止日本国民会議  
事務局長 藤本 泰成

## 【工事再開直後の震災、上関原発工事中止に！】

山口県上関町の長島に、中国電力が建設予定の上関原子力発電所（137.3万kW×2機）は、約3キロほど海を隔てた祝島の住民の反対によって29年間建設できずに来ました。中国電力は、2018年の営業運転開始予定に合わせて、今年2月21日に住民の反対を押し切って工事の再開を行いました。抗議する祝島住民が工事関係者によって阻まれ、もみ合いとなったなかで反対派の女性が病院に搬送される事態も生じました。新聞報道は、「反対派の妨害」と言うような論調でした。しかし、翌月3月11日の震災とそれに伴う福島原発事故を受けて、工事は中断されました。

### （資料①）

#### ●上関原発工事、1年3か月ぶり再開（2011年2月21日 読売新聞）

中国電力（広島市）は21日、山口県上関町で進めていた上関原子力発電所の建設工事を再開した。計画に反対する住民らの妨害で2009年11月上旬に中断して以来約1年3か月ぶり。（以下略）

#### ●上関原発工事 中国電が続行、反対派とにらみあい（2011年2月22日 読売新聞）

山口県上関町の上関原子力発電所建設計画で、埋め立て工事を再開した中国電力（広島市）は22日も作業台船を使い、予定地海域で作業を行った。反対派住民の抗議行動も続き、予定地陸域では作業員とにらみ合いになっている。（以下略）

#### ●上関原発の準備工事中断（2011年3月16日 読売新聞）

福島第一原発の相次ぐ事故を受け、中国電力（広島市）は15日、山口県上関町で進めていた原子力発電所の建設準備工事を中断すると発表した。事故後、山口県や上関町が中断を要請していた。

中断期間は決まっておらず、2018年3月に営業運転開始を予定していた計画の修正は避けられない情勢だ。（以下略）

全国には、現在14基の原発計画が進行中ですが（資料②）、そのほとんどが工事中断、計画の見直しを迫られています。多くの原発立地県の知事が、新規立地計画の見直しや安全基準の再検討などを求めています。関西電力の八木誠社長は、福島原発の事故に関して「想定外の事態。過去最大の津波を考えて『安全』と言ってきたが、検討が足りなかったと解釈すべきだ」と述べています。

しかし、どの電力会社の首脳も、中国電力が上関の原発工事中止を「あくまでも準備計画の中断であり、原発計画全体への影響はない」と述べているように、原発中心の発電計画を放棄するとは述べていません。3月28日には、関電の八木社長は、定期検査中の原発の運転再開と高浜原発4号機のプルサーマル計画に対して「粛々とやっていく」、中電の山下社長は、原発は「エネルギーセキュリティー確保

や地球温暖化防止の観点からも必要な電源」と述べるなど、原発推進のこれまでの立場を変えない姿勢を見せています。

上関原発工事の中断を求めた山口県の二井関成知事も「原発立地は安全確保が大前提。国は地震、津波と事故の関係や原因究明に徹底的に取り組んで欲しい」と述べているとおり、現時点での原発立地計画の全面的廃止を要求しているわけではありません。

(資料②)

会社	発電所	出力 (万kW)	運用開始予定
東北電力	浪江・小高 (福島県)	82.5	2021年度
	東通2号 (青森県)	138.5	2021年度以降
東京電力	福島第一7号 (福島県)	138	2016年10月
	福島第一8号 (福島県)	138	2017年10月
	東通1号 (青森県)	138.5	2017年 3月
	東通2号 (青森県)	138.5	2000年以降
中部電力	浜岡6号 (静岡県)	140 (級)	2021年以降
中国電力	島根3号 (島根県)	137.3	2012年 3月
	上関1号 (山口)	137.3	2018年 3月
	上関2号 (山口)	137.3	2022年度
九州電力	川内3号 (鹿児島)	159	2019年度
電源開発	大間 (青森県)	138.3	2014年11月
日本原子力 発電	敦賀3号 (福井県)	153.8	2017年 7月
	敦賀4号 (福井県)	153.8	2018年 7月

佐藤雄平福島県知事は、震災後の3月15日、菅直人首相に電話で対応し「県民の不安や怒りは極限に達している」と伝え、国の責任で早期に事態を收拾するよう要請したと報道されています。彼は、事故に対する東京電力の対応などに苦言を呈したとされています。

しかし、佐藤知事は、昨年8月に、安全性への懸念を表明する県民の声を無視し、福島第一原発3号機におけるプルサーマル計画の実施を受け入れました。佐藤知事は、「原子力政策については、県民の安全・安心の確保を最優先に真剣に向き合い、慎重に対応してまいりました」としながら、「本日、技術連絡会の『技術的3条件の確認について、国、東京電力は適切に対応したものと判断する』との見解について、県として了解することといたしました」と述べています。しかし、「福島県としても、MOX燃料使用にあたっての安全の確保など東京電力のプルサーマル実施に係る取組みについては、県民の安全・安心の確保の観点から、立地町とともに引き続き確認し、しっかり対応してまいります」との佐藤知事の話は守られることがありませんでした（福島県ウェブサイト、知事記者会見 2010年8月6日参照）。

### 【原発依存からかじを切れ】

今回の事故に対する多くの知事の発言は、これまでの容認の姿勢から国民的批判を免れようとする場当たり的なものとしか感じられません。その中では、3月24日の朝日新聞「3・11 opinion」における

川勝平太静岡県知事の「原発依存からかじを切れ」と題した主張は明確で分かりやすいものでした。「原発の安全性が大きく揺らいだ今、エネルギー政策を根本的に見直し、原子力依存から脱却する方向に舵を切らなくてはなりません」「いきなり原発廃止のハードランディングではなく、電力の供給力を落とさないように、徐々に廃止していくソフトランディングが望ましい」といった主張は、原水禁がこの1月に出した「原水禁エネルギープロジェクトからの提言－持続可能で平和な社会をめざして」の主張と同様のものです。原発立地県である静岡県の現役知事の主張として注目されます（添付資料参照）。

菅直人首相は、3月31日の記者会見で、原子力を基本にしたエネルギー政策の見直しに言及しました。半世紀以上続けられてきた原子力推進の政策について、初めて負の方向から触れた首相の発言は、非常に重たいものです。電力会社や多くの自治体の首長がとっている、その場しのぎの言葉であってはなりません。また、そうさせてはなりません。今後の私たちのとりくみが重要となります。

マグニチュード9・0は想定外。10  
級を越す津波も想定外。福島第一原発  
の事故で、原発は安全という想定は互  
解しました。東京電力幹部の社会的信  
頼も地に落ちた。これも想定外です。  
経済産業省の原子力安全・保安院  
は、「東電によれば」という言葉を連  
発し、あいまいな説明に終始しまし  
た。保安院は2007年度に福島第一  
原発の安全性の検査を終えており、隅  
から隅まで分かっているはず。保  
安院への信頼が揺らいだのも想定外  
です。

「想定外」のオンパレードです。  
東海地震の想定では、地震の強さは  
マグニチュード8・0。東海、東南  
海、南海地震が連動した場合はマグニ  
チュード8・7、津波の高さは10以  
下です。東日本大震災は、この想定を  
超えています。

今回の地震が起きた時、一番知りた  
かったのは、福島原発の揺れの数値で  
す。静岡県には中部電力浜岡原発があ  
ります。揺れの許容度は800ガル  
(ガルは加速度の単位)で、実際には  
1千ガルまでは耐えられます。09年8  
月11日の駿河湾沖地震では、浜岡原発  
の5号機だけが426ガルと、他号機  
の倍以上も揺れました。我々は原因を  
検証しています。地震による原発の揺

れには特に関心が高いのです。  
ところが、保安院も東電も、揺れの  
データをほとんど出さない。福島第一  
原発3号機は507ガル、6号機は4  
31ガルという以外、明らかにされて  
いません。1号機、2号機、4号機、  
5号機の数値がなぜ公表されないの  
か。保安院も東電も、ともに情報の出  
し方がもどかしい。

### ■安全指針早急に

いろいろな「想定外」のなかで、特  
に私が衝撃を受けたのは、ディーゼル  
発電機が使用不能になったことです。  
原発は事故が起きても、「止める」「  
冷やす」「閉じこめる」という基本

ができれば安全です。ところが「冷や  
す」ための電力源が損壊した。最後の  
砦が陥落したも同然だからです。  
浜岡原発はどうなっているのか。直  
ちに中部電力に問い合わせると、「浜  
岡原発の発電機は1階にある。その防  
水チェックは終了。念のために、緊  
急用の発電車両を2台、25階の高台に  
置く」とのことでした。津波について  
は、従来は「発電所前の高さ10〜15  
の砂丘が防波堤の役割を果たす」と説  
明されていたのですが、今回の大津波  
を知って「高さ12以上の防護壁を設  
置する」との回答がありました。中電  
がただちに対応策をとったことは評価  
しています。

にはできません。原発に限らず、想定  
された条件の下でしか、安全は確保で  
きません。現実が従来の想定を超えれ  
ば、直ちに想定自体を見直す必要があ  
ります。国は原発の新しい安全指針を  
早急につくるべきでしょう。  
しかし、新しい指針をつくっても、  
想定外のは起こります。  
「人間は自然を制御しきれぬもので  
はない」と私は考えています。地震、  
噴火、台風、津波などを経験してきた  
日本人の哲学でもあると思います。  
日本政府と電力会社は、二酸化炭素  
を出さないクリーンな電力源だとい  
うことで、原発を推進してきました。し  
かし、原発の安全性が大きく揺らいだ  
今、エネルギー政策を根本的に見直

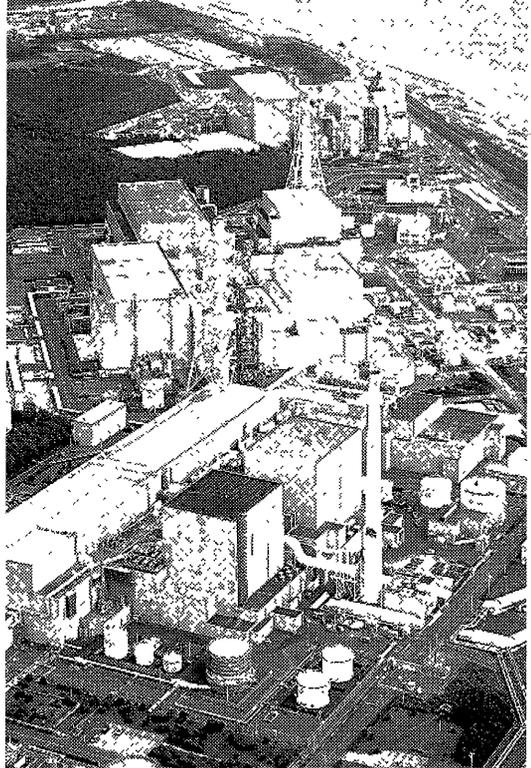
# 原発依存からかじを切れ

静岡県知事

川勝 平太さん



48年生まれ。早稲田大政  
治経済学部教授(比較経済  
史)をへて、07年静岡文化  
芸術大学長に就任。09年7  
月、静岡県知事に初当選。  
＝山田知英撮影



浜岡原発＝静岡県御前崎市

### ■無知は恐怖の源

ただ、対策は長期的、短期的に考え  
るべきでしょう。  
長期的には、代替エネルギー、特に  
太陽光発電を増やしていくべきです。  
一案として、耕作放棄地に太陽光発電  
のパネルを設置する。日本には耕作放  
棄地が40万近く存在し、静岡にも1  
万2千あります。元々は畑で、日  
光は十分当たります。  
また、電力会社への依存から脱却す  
るために、各家庭に太陽光発電機を設  
置し、事業所は必ず自家発電の設備を  
備える。「計画停電」などで電力会社  
に振り回されないよう、企業も家庭も

電力源について、ある程度自立する必  
要があります。  
一方、短期的にはどうするか。喫緊  
の課題は電力不足を補うことです。福  
島第一原発は廃炉を免れない。ほか  
にも地震で運転停止に追い込まれた原  
や火力発電所があり、電力の供給力は  
2千万ワット近くも低下しました。  
それゆえ、現在運転中のすべての原  
発を止めることなど到底できません。  
停電をきたすからです。浜岡原発で  
は、出力110万ワットの3号機が  
定期点検を終え、いつでも運転再開で  
きる状況です。震災前の指針に基づ  
点検ですが、人助けのためにあえて動  
かすことも考えられます。いきなり原  
発停止のハードランディングではな  
く、電力の供給力を落とさないよう  
に、徐々に廃止していくソフトランデ  
ィングが望ましい。

短期的にも長期的にも、一般の人々  
の科学力・技術力への関心を格段に高  
めなければなりません。無知は恐怖の  
源です。原発事故が起きたのは、科学  
的予見がはずれたことと、技術の不具  
合によります。それを克服するのも科  
学であり技術です。太陽光発電への切  
り替えにも科学・技術がいります。災  
害についての科学的知識と防災の技術  
的ノウハウを高めれば、いざという時  
も風評に惑わされず、冷静に対応でき  
ます。静岡県では、積極的に科学・技  
術の振興を図り、実践的な防災学を打  
ちたてる計画をすでに実行に移してい  
ます。  
(聞き手・太田啓之)